

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2024年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業264社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45  
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：153社（58.0%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

－主要3項目DI全てプラス、日本人客の減少と外国人客の増加顕著、約半数の企業で従業員不足－  
前年同期（2023年10月～12月）と比べた今期（2024年10月～12月）の状況  
今期と比べた来期（2025年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは17.2で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。業況DIは10期連続、売上DIは11期連続プラス水準で推移し、採算DIは3期ぶりのプラス水準となりました。卸売業、運輸・倉庫業、観光業、サービス業は主要3項目DI全てがプラスとなりました。原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が主な課題で、46.4%の企業で従業員が不足しています。

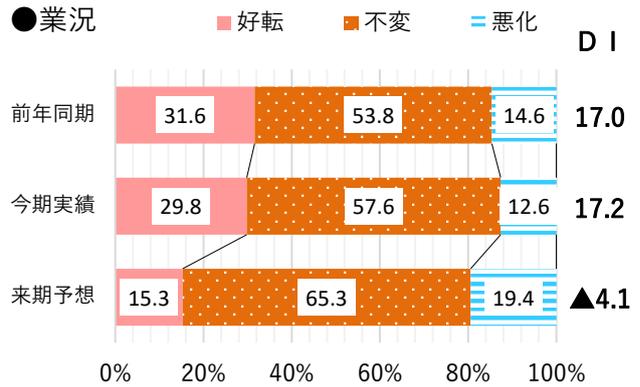
業種別業況DIは、製造業が同14.6ポイント低下の3.3となりました。主要3項目DI全てが低下し、採算DIはマイナスとなりました。食品の89%、プラスチックの全社で原材料価格が上昇しました。金属加工の63%で従業員が不足しています。卸売業は同2.4ポイント上昇の23.5となりました。売上DIは28.5ポイント低下したものの、プラス水準を維持しました。食料・飲料の全社が適正人員を確保できており、80%で業況、売上、採算が不変と、堅調に推移しました。小売業は同4.0ポイント上昇の31.3となりました。売上DIが62.5ポイントと大幅に低下し、マイナスとなりました。大型店やコンビニを含む食料品を扱う企業では、83%で商品仕入単価が上昇しましたが、売上、採算、業況が悪化した企業はありませんでした。自動車では全社で従業員が不足しています。運輸・倉庫業は同19.9ポイント上昇の13.3となりました。道路旅客運送は75%で売上が増加しましたが、全社で従業員が不足しています。道路旅客運送では75%が、道路貨物運送と倉庫では66%がサービス単価を引き上げました。観光業は同20.3ポイント低下の23.4となりました。宿泊は50%の企業で客数が減少し、日本人客が減少した企業が60%、外国人客が増加した企業が60%と特徴的な傾向が見られました。サービス業は同14.8ポイント低下の5.2となりました。売上DIと採算DIに大きな変化はありませんでした。ビルメンテナンスの全社で人材が不足しています。建設業は24.4ポイント上昇の20.0となりました。売上DIと採算DIも上昇し、主要3項目DI全てがマイナス水準を脱しました。業況は、一般土木工事業の42%が好転、58%が不変と回答しています。また、職別工事業は75%、設備工事業と造園業は全社が不変と回答しており、堅調に推移しました。

来期の業況判断DIは▲4.1で、業況がマイナスに転じると予想しています。業種を問わず、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が懸念されます。閑散期にあたる企業を中心に、景況感は低調な推移となる見込みです。観光業では引き続き客数の増加傾向の鈍化、日本人客の減少と外国人客の増加が見込まれます。

業況、売上、採算

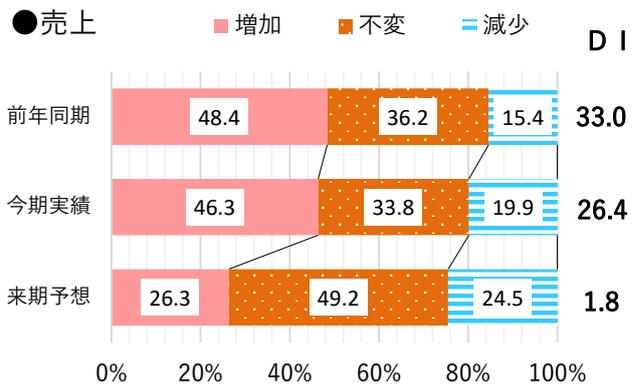
今期（2024.10～12）の業況判断DIは17.2で、前年同期(2023.10～12)と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



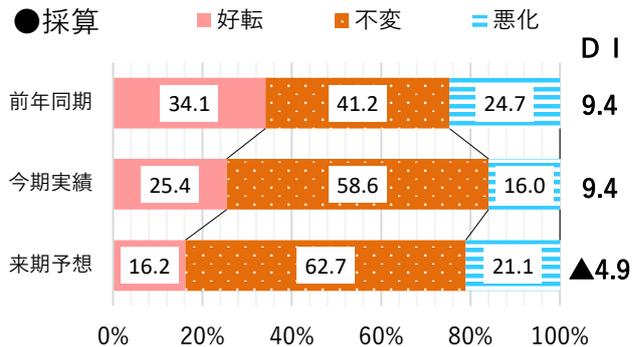
今期の売上DIは26.4で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

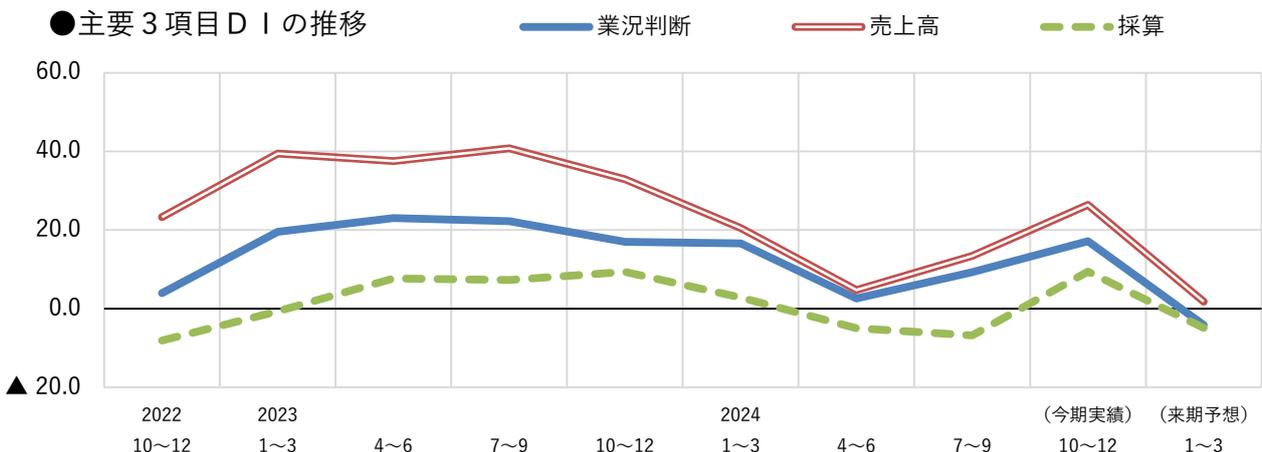


今期の採算DIは9.4で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



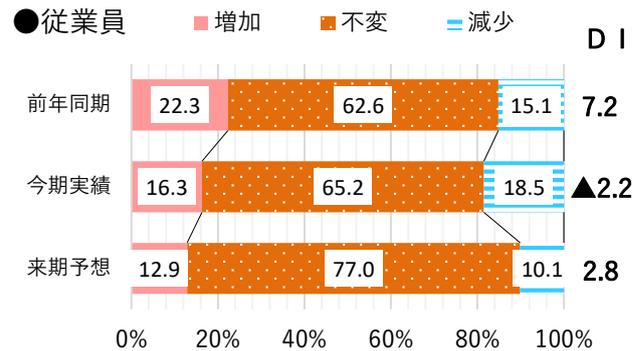
●主要3項目DIの推移



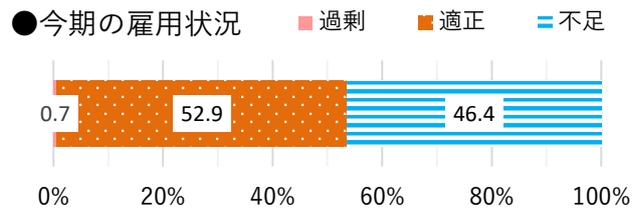
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲2.2で、前年同期と比べ9.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数が増加に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は0.7%、適正であると回答した企業の割合は52.9%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



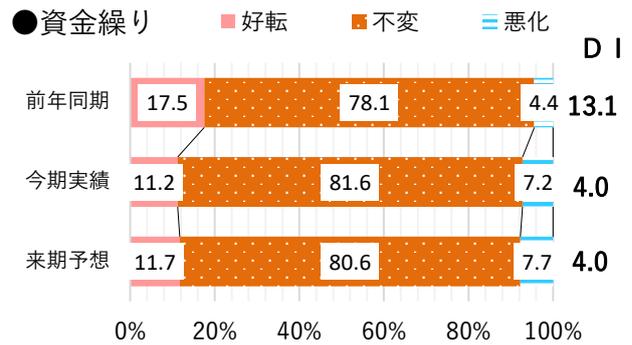
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、37.9%を占めました。46.4%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	18
	不足	10
不変だった	過剰	1
	適正	58
	不足	37
減少した	過剰	0
	適正	5
	不足	24

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは4.0で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった153社の46.4%にあたる71社が実施、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」の順です。

来期は、41.8%にあたる64社が設備投資を計画していると回答しています。

